

果樹の無袋栽培に関する研究

第2報 無袋梨の害虫類について

宮原 実

(福岡県農業試験場園芸分場)

MIYAHARA, M.

Studies on the Non-bagging Cultivation of Fruit Trees.
(II) On the insect pests in pear orchard.

果樹栽培の省力化の最たる手段として無袋栽培の導入があり、現在最もコスト高にある梨においてこの要求が大きい。無袋化は害虫類の誘発が甚しいものと思われ、暖地における無袋梨の害虫相を明かにするため1960年以後若干の調査観察を行い、その概要を報告する。

調査方法

無袋歴並びに環境の異なる3種の長十郎園(A園3年目中山間地、B園2年目山間地、C園1年目平地)を選定し、主に果実を対象に被害状況並びに発生害虫

種について調べた。調査は果実の肥大期と収穫期に各園を代表する地点数ヶ所より200~1,200果を抽出、比較に有袋果の収穫期において同様の調査を行った。各園とも面積10a程度、経済的栽培を目的に病害虫防除が充分に実施(特にナシホソガとナシノヒメシンクイを主体に夫々2~3回防除)された条件下で調査した。

試験成績並びに考察

無袋梨長十郎における害虫類の発生並びに被害状況は次表のとおりで、果実肥大期の7月18日調査では

第1表 発生害虫類とその被害状況(1961年)

園別	栽培法	調査月日	調査果数	ナシノヒメシンクイ	ナシホソガ	吸収蛾類	コカクモンハマキ	チャバネアオカメムシ	ミノムシ種	ナシマダラメイガ	コナカイガラムシ	アブラミ	その他
A	無袋	7.18	200	1.0	14.5	0	0	0	1.0	0.5	0	0	0
	有袋	8.28	1,200	2.9	12.2	1.4	0.4	5.1	1.0	0	0	0	1.6
		9.9	115	0	0	0	0	0	0	0	2.6	0	0
B	無袋	7.18	350	0	0.8	0	0.6	0	0	0.3	0	0	0
	有袋	8.28	600	0.5	1.5	0.6	1.2	0	0	0	0	0	0.4
		9.9	300	0	0	0	0.6	0	0	0	13.6	3.6	0.6
C	無袋	7.18	400	0	6.2	0	4.0	0	0	0.5	0	0	0
	有袋	8.28	400	0	7.7	3.7	2.0	1.5	0	0	0	0	1.7
		9.9	100	0	0	0	1.0	0	0	0	1.0	0	0

(註) 吸収蛾類防除にA園は防虫網被覆、B園は収穫期に忌避剤処理、C園は無処理。

以前に加害されたナシマダラメイガの被害が各園に若干認められた外に、他種害虫ではナシホソガを最も優勢種としてナシノヒメシンクイ、ミノムシ等による被害も僅かに認めた。収穫期の8月28日にはナシノヒメシンクイ、吸収蛾類、カメムシ等を優勢種としハマキムシ、2化期のナシホソガによる被害が僅かに進行した例を認めた。栽培期間中に加害する害虫は幼果期に発生するモモチョッキリを加えて現在3目8科10種内外に達し、なお他種カメムシ、セミ類の加害も予想され、今後更に追加されてくるものと思う。しかし有袋果の如くコナカイガラムシの寄生、アブラミの産卵による被害等は認めず、これ等は無袋栽培下では劣勢化するものと考えられた。

無袋歴及び環境による害虫相の差異については、本

調査園のような実際防除のなされた条件下では十分な結果はえられなかつたが、今までの実例からみてナシノヒメシンクイが年々密度を高くし、吸収蛾類、カメムシ等は山沿い地帯に多発する傾向がある。

以上より梨無袋果に寄生する害虫類で優勢種はナシホソガ、ナシノヒメシンクイ、吸収蛾類があり、例年常発するものと考えられる。前者については1化期の防除は不可欠であり、後2者は果実肥大期~収穫期において加害が甚しく、この時期の防除対策を考慮する必要がある。更にカメムシ、ハマキムシ等による被害も概して大きく、また幼果期においてはナシマダラメイガ、ミノムシ、モモチョッキリ等に加害され易い傾向にあり発生条件によつては防除を要する。